

一般質問

町議会議員一般選挙で、立候補した人の責任者の妻が、投票立会人になっているとの情報があつたが、このことについて説明を求める。

答弁：法令上、特に問題は無いと認識しているし、直接関係がないその妻までは及ばないと判断している。



大高恒藏議員

《大高議員》

平成31年4月21日執行の町議会議員一般選挙で、ある地区から立候補した人の責任者の妻が、同地区の投票所で立会人になっているとの情報があつたが、このことについて町長・選挙委員長に説明を求める。

①嘘のような情報だが、事実なのか。

②常識的ではないと思うが、選挙管理委員会で立会人を選考する際、気が付かなかったのか。

③その地区の選挙人に見れば、圧力や付度を要求されているように思われ、仮に票が動いた可能性があるとすれば、当選が確定した立候補者はどうなるのか。

④立会人や責任者、そして、立候補者が悪いのではなく、選挙のミスであると思うが、どのような認識でいるのか。

《町長》

指摘されたようなケースは実際にあつたが、選挙事務局としては、法令上、特に問題

は無いと認識している。

投票立会人については、公職選挙法第38条で候補者本人を選任することを禁止しているが、そのほか規定は無く、総務省からの通知にも「投票立会人の選任に当たっては、その公益代表たる性格に鑑み、なるべく当該選挙の候補者と直接関係のない公正な人物を選任すること」とあり、この「直接関係」がある人とは、当該候補者の家族や運動員等で、出納責任者も含むが、その妻までは及ばないと判断している。

また、選挙の約2か月前に投票立会人を選任しており、出納責任者や運動員は、立候補の届出を受けて初めて把握することになるため、届出書に記載のある出納責任者あるいは運動員に、立会人を選任していないかどうかの確認は当然行っており、場合によっては立会人を変更する措置もとっている。

《大高議員》

⑤特別養護老人ホームなどの施設では、どのような方法で不在者投票を行っているのか。

《町長》

不在者投票ができる施設は、おおむね50人以上の特別養護老人ホームや介護老人保健施設で、県の指定を受けた施設に限られ、当町では「しらかみのさと」と「はまなす荘」の2施設が指定を受けて実施している。

投票の方法としては、一般的には、施設内に投票所を設け不在者投票管理者1人（主に施設長）と立会人1人以上（事務長など）の合計2人以上の立会いの下、各選挙人に投票させることになる。

また、代理投票の申請がある場合は、補助者2人（主に施設職員）を選任し、管理者、立会人と合わせて4人以上の立会いの下、代理投票を行うことになっている。

《大高議員》

⑥不在者投票を行っている特養等に、外部に依頼し立会人を派遣している施設は、何施設あるのか。

《町長》

外部からの立会人を派遣している施設は、当町には無い。県内でも、八戸市に在る1施設のみが実施したと伺っている。



町民が一堂に集い、心から楽しむイベントを考えよ

《大高議員》

①スポーツフェスティバル・ふかうらヤットセに代わる、町民が一堂に集い楽しめる新たなイベントを早急に考えるべきである。

《町長》

「町民スポーツフェスティバル」は平成28年度に事業を休止、平成29年度以降は廃止となり、「ふかうらヤットセ」についても、10年を区切り今年度は開催を見送る形とした。

スポーツフェスティバルの廃止理由としては、同時に開催していた小学校体育大会が児童数の減少や授業に与える影響により開催が難しくなってきたこと、高齢化により、各地区の参加者の確保が困難になったことが挙げられ、また、平成28年度に実施したアンケート調査の結果、開催を希望しない地区が35地区のうち22



▲平成27年度まで11年間開催した町民スポーツフェスティバルの様子

地区、全体の63パーセントを占めたことから、事業廃止を決定。これらの経緯から、町民が一堂に集うスポーツイベントの開催は困難であると考えるので、ご理解のほどよろしくお願いしたい。

また、ふかうらヤットセについては、昨年まで10年間開催してきたが、ここ数年、イベントに関わる参加者、来場されるお客様ともに減少が顕著であることから、一旦開催を見送ることとした。

今年度は、町民や帰省者がより心を弾ませ、参加者も来場者も共に満足度の高いイベントを計画したいと考えている。新しいイベントの計画・開催に当たっては、集客や経

済波及も大切にしながら、町の現状を把握し、ニーズを捉えた将来的な視点と時代にふさわしい新しいイベントの誕生に期待をしている。

《大高議員》

②スポーツフェスティバルの支出やふかうらヤットセの収支、出店の波及効果や意見等について。

《町長》

スポーツフェスティバルの支出は、最後の開催となった平成27年度の事業費で、およそ150万円。ふかうらヤットセについては、例年、ヤットセ実行委員会に対し、町単独で250万円から270万



▲10年間続いていた「津軽風待ち湊ふかうらヤットセ」

円を補助してきたが、出店者負担金も含めると、約300万円の事業費で2日間開催していた。出店者への波及効果は、天候やお盆期間の暦の並びによって大きく左右されることが多く、そのような集客の不安定な中にあっても、快く出店してくださる関係業者の皆様には、いつも感謝している。

《大高議員》

③令和元年度予算で、プロ野球楽楽天協賛ゲーム広告業務委託料270万円とPR動画制作委託料10万8千円と承知しているが、この協賛に要したその他の費用は幾らか。

《町長》

昨年に引き続き、2年連続で開催した冠協賛ゲームは、仙台市の楽楽天本拠地スタジアムが溢ればかりに「深浦一色」に染まり、正面ゲート前で「マグロステーキ・雪にんじんジュースの振り舞い」も行なわれていた。非常に投資対効果の高い事業展開だったと思う。

6950人。当町の特設ブースには昨年以上に長蛇の列ができるなど、存分に深浦町をPRすることができた。協賛デー開催日の翌日以降における新聞、テレビ等の露出度は昨年以上に高く、町内外での反響の大きさを改めて実感している。

本事業の経費については、昨年同様、大型スクリーンや大小さまざまな形でのビジョン告知など19項目にもわたる協賛プログラムが楽楽天側から用意され、楽楽天側へは270万円、PR動画の制作費に10万8千円、その他、来場者へのオリジナルグッズや記念品制作費、振る舞いや抽選会の運営経費、スタッフの交通費などが約90万円で、総額約370万円程度の経費を要した。

昨年の総額が550万円だったため、今回は35パーセント程度事業費を削減しながら昨年同様のプロモーションを行なったことは、非常に投資対効果の高い事業展開だったと思う。



▲仙台市宮城野区の楽天生命パークで開催した「白神山地とマグロの町・深浦町スペシャルデー」当町特設PRブースには1000人を超えるお客が何重もの行列を作っていた。

こえてきている。

白神岳避難小屋 修復について

《大高議員》

1985年、今から約34年前に建てられ、登山者の命を守ってきた避難小屋は、老朽化が激しく倒壊の恐れがあり、早急に修復が必要である。この際、修復ではなく、新しい避難小屋を新築すべきと思うが、町長の考えは。

《町長》

白神岳避難小屋は、全国の登山愛好家や地元有志からの寄付金240万円と旧岩崎村の補助金250万円、合わせて490万円を掛けて昭和60年に建設され、平成17年の町村合併に伴い、当該避難小屋は深浦町に寄贈された。これまで2度にわたり補修・改修工事を実施してきたが、建設から34年が経ち、長年厳しい風雪にさらされ、外壁や内部が腐食するなど老朽化も激しく、倒壊の危機となっていることから、今回、再度補修工事を実施することとした。

避難小屋を新築すべきとの意見があつたが、新築となれば、当該避難小屋が白神山地の核心地域に位置することから、県自然保護課及び環境省と長期間の協議を重ね、実施許可を得なければならぬ。今回の補修工事は建物の基礎を残し、外部・内部共に、ほぼ新築に近い内容の補修工事を実施するものであるため、ご理解・ご協力をよろしくお願いしたい。



▲白神岳の山頂付近にある白神岳避難小屋



▲腐食が著しく倒壊の恐れがあるため、今年度改修する。

《町長》

新聞に掲載された写真に関して、町民の皆様のご意見等は一切届いておらず、むしろ、町民の皆様からは「今回は当選したい」「次回は必ず私も応募したい」などの声が多数聞

《大高議員》

④5月16日の新聞に掲載された写真とそのネーム・キャプションに、一部整合性を欠くものが掲載されていたが、あの写真が町民の誤解を生む心配はないか。

《町長》

新聞に掲載された写真に関して、町民の皆様のご意見等は一切届いておらず、むしろ、町民の皆様からは「今回は当選したい」「次回は必ず私も応募したい」などの声が多数聞